

2007年度 事業計画

(2007年4月1日から2008年3月31日まで)

学校法人 明 星 学 苑

2007 年度事業計画

【目 次】

I	明星学苑を取り巻く環境および学苑が目差す方向	1
1.	学苑を取り巻く環境	1
2.	学苑が目差す基本方向	1
II	2007 年度事業計画	2
1.	はじめに	2
2.	重点事業	2
①	新しい明星学苑像づくり	2
②	責任ある執行体制の確立	2
③	人事制度の改善	3
④	運営基盤の整備	3
⑤	各校の基本政策	3
⑥	学生生徒募集の基本政策	4
III	各部門の事業計画の概要	5
1.	明星大学	5
2.	いわき明星大学	9
3.	明星中学高等学校	10
4.	明星小学校	11
5.	明星幼稚園	12
IV	明星学苑創立 85 周年記念事業計画の概要	13
1.	事業計画	13
2.	記念募金	13
V	2007 年度予算の概要	15
資料	別表 1 (設置校在籍者数)	
	別表 2 (資金収支予算書)	
	別表 3 (消費収支予算書)	

I 明星学苑を取り巻く環境および学苑が目差す方向

1. 学苑を取り巻く環境

これからの日本の社会と教育を考えると、少子化や学生生徒の学力の多様化を始めとする学校を取り巻く環境の激しい変化は、教育を行いあるいは学校を運営する者に重大な課題を投げかけています。本学苑についても例外でなく、その変化の渦中に置かれています。

学校に対して、どのような教育が行われているのか常に社会から評価がなされ、そして好ましい評価を得られなければ学校自体の存在が認められなくなる恐れすらあります。学校教育にたずさわる者はこのことを正面から受け止めるとともに、社会の要請に着実に応えていくことが求められています。

こうした環境の中、本学苑は、「和」の精神を基に、「世界の平和に貢献する人」を育てることをもって社会に寄与することをその使命とし、学苑が設置する学校は、学訓「健康、真面目、努力」を旨とし、学苑の学生生徒・児童園児に対して「真心と真心の人格接触」による「手塩にかける」教育を行い、着実に成果を上げることを基本理念としながら、現在そして将来に向けて、社会の要請に応える学苑像を示し、魅力的で個性的な学校づくりをすすめます。

2. 学苑が目差す基本方向

これからの社会に送り出していく人の育成のために、学苑が目差す基本方向は、次のとおりです。

- ☆ 「手塩にかける教育」を行ない、品性と知性と身体の調和のとれた人を育てるため、変化する社会と多様化している学生生徒に柔軟に対応できる学校づくりと教育の充実を目差す。
- ☆ 多摩地域（いわき明星大学においては地元いわき地域）で、幅広く社会に貢献する人を育てる学苑としての地位の確立をし、教育の中心となることを目差す。
- ☆ 総合学園として、「和」の精神を基盤とし、国際性を涵養しつつ「世界の平和に貢献する人」を育てる徳育と知育と体育の調和を目差す一貫教育体制を整備充実する。
- ☆ 学苑は、学生生徒と保護者および社会の視点に立って、教職員の質の向上と、信頼を勝ち得る教育の充実を徹底する。
- ☆ 中期および将来に向けて安定した学校運営ができる健全な財政を維持する。

II 2007 年度事業計画

1. はじめに

—新たな学苑像づくりと健全な学苑経営のための財政の均衡化と長期安定化に向けて—

学校法人明星学苑は、明星大学、いわき明星大学、明星中学高等学校、明星小学校、明星幼稚園を擁する総合学園です。2007 年は、学苑がこれからの使命を果たしていくためにも、新たな学苑像(ヴィジョン)づくりを行うとともに、財政の均衡化と安定化に向けた取組みを行います。特に少子化は学生生徒の減少となって現れつつあり、それは学苑の帰属収入へも影響を与えています。今後はさらに帰属収入が増加するような楽観的な見通しは立てられないことから、学苑の有する資源を有効に活用するとともに、投資における資源配分にあたっては学生生徒への教育へ重点的に行い、学生生徒やその保護者並びに社会の要請に着実に応える教育を実現し、そのことによりより多くの学生生徒が集い、社会からの信頼を獲得して、安定的な学苑の運営を遂げていくことを目指します。

2. 重点事業

—経営基盤の強化に向けて—

① 新しい明星学苑像づくり

本学苑の建学の基本理念をしっかりと継承しながら、現在および将来に向けた学苑像を明らかにし、その下での中期の事業計画を提示します。これは学苑が学生生徒・保護者に対して示す姿であると同時に、約束することでもあります。

この学苑像は、明星学苑の教育の基本である「真心と真心の人格接触」による「手塩にかけろ」教育を行うことを目標に、各学校の教育体制のあり方の検討、そこでの教育内容と教育方法の点検と改善、教育と教員の質の向上を不断に図り、地域を中心にした社会への貢献を果たしていこうという姿勢を、学苑創立 85 周年である平成 20 年に明示し、新たに動き出すことを目指すものです。この学苑像と中期の事業計画の下に、各学校はその目標に従った教育を行うことを基本方向に進めます。概要は次のとおりです。

- ・ 学苑の個性の強化
- ・ 学苑の現在と将来のポジションの明確化
- ・ 社会のニーズに応じた魅力ある教育の推進
- ・ 適切な資源配分と活用

② 責任ある執行体制の確立

取り巻く環境が厳しくなってくる中、明星学苑が、総合学園として擁する各教育機関を健全に運営していくには、財政を均衡化・安定化させるための責任ある執行体制の確立が不可欠です。理事会を始めとした執行機関は事業計画の承認の後それが確実に遂行されているのか点検し、その結果についての責任が明確である体制を確立します。さらに、理事会を始めとした執行機関は、管理運営責任が着実に果たされたのかを自己点検・評価し、不備不足が認められた場合は改善することが求められることとなります。概要は次のとおりです。

- ・ 理事会による学苑財政計画と学苑運営方針の提示
- ・ 学苑の事業計画遂行の理事会によるモニタリング
- ・ 内部監査体制の構築
- ・ 理事会の自己点検・評価

③ 人事制度の改善

事業を推進する上で、組織として取り組む力を向上させることも合わせて重要なことです。教職員の人事制度を改善し、学生生徒への教育とサービスの強化のための組織力の向上を図ります。方向は次のとおりです。

- ・ 業績が処遇に反映され、能力の伸びが実感できる透明度の高い制度の構築
- ・ 教職員研修の充実

④ 運営基盤の整備

健全なる学苑運営のために、責任ある執行体制の確立とともに、学苑運営基盤の整備を進めます。そこには次の3つの柱があります。

- ・ 財政基盤の整備
- ・ 情報基盤の整備
- ・ 管理基盤の整備

財政基盤の整備は、財政上健全な運営のために必要不可欠なものであるばかりではなく、現在そして将来に亘り教育による人材の育成を継続するという学苑の使命を果たすためにも欠かせないものです。安定的な収入の確保とともに、効果的な支出のあり方を追求します。

情報基盤の整備は、システム化による各種管理業務の効率化だけではなく、業務プロセスの透明化を図るとともに、明星大学（東京都日野市および青梅市）、いわき明星大学（福島県いわき市）、明星高等学校・明星中学校・明星小学校・明星幼稚園（東京都府中市）をネットワークで結び、学苑の各教育機関の連携をより強固にすることを目差すものです。

管理基盤の整備は、責任ある執行体制を支える重要な基盤です。特に近年種々のリスク管理の必要性が指摘されています。学苑として、万全に近いリスク管理のあり方を検討していきます。また、学苑の基本財産として施設設備の管理は極めて重要です。財政基盤を守りこれからの教育に資するためにも、施設や設備の計画的な管理と整備を行います。

⑤ 各校の基本政策

総合学園としての基本方向に基づき、学苑のビジョンと中期計画に盛り込んでいくものとして、各校の基本政策を策定します。概要は次のとおりです。また、各設置校の在籍者数については別表1のとおりです。

【大学】

- ・ 社会状況に応じた学部学科の改組改編
- ・ 教育の成果を得られるカリキュラムや教育方法の構築
- ・ 教育や教員の質の向上を図る組織的取組みの推進
- ・ 学生や保護者の視点に立ったサービスの充実
- ・ 地域の教育の拠点としての地位の獲得

- ・ 総合学園における大学の役割の明確化

【中学高等学校】

- ・ 中高一貫教育の確立とそれに基づくカリキュラムや体制の構築
- ・ シラバスや自主教材の開発による授業の質の向上と保持
- ・ 学力の多様化への対応
- ・ 進路指導・生徒指導の充実
- ・ 大学との連携推進

【小学校・幼稚園】

- ・ 保護者のニーズに対応した教育改善

⑥ 学生生徒募集の基本政策

学生生徒からの納付金が帰属収入の大部分を占め、学苑の運営を支えています。学生生徒に
いかに学苑に集まっていただくかということは、今後の学苑運営においても重要な課題である
ことから、学苑のヴィジョンに基づき学生生徒募集のための基本政策を提示し実行します。

- ・ 教育目標に基づいた学生募集方針の確立
- ・ 入試制度や募集活動方法の改善
- ・ 総合学園としての各校との連携の推進
- ・ 地域の学校との連携や連絡の緊密化
- ・ 卒業生（同窓会組織）との連携や連絡の緊密化

Ⅲ 各部門の事業計画の概要

1. 明星大学

① 基本方針

本学は、1964年の開学以来、理工学部、人文学部を設置し、収容定員からみると学生数規模が2,500～3,000名程度の大学としてスタートしました。その後、開学以降の約30年間は順調な発展を遂げ、現在の本学の学生数規模は、日本の私立大学約550校の中で、50位前後に位置する中堅大規模校となりました。さらに2006年度には、日野校のキャンパス再開発の主要建物4棟が完成し、教育・研究・学習環境とキャンパスライフが大幅に改善されました。

しかし一方、18歳人口の減少と学生の基礎学力の低下により、志願者の減少、在籍学生数の減少、就職状況悪化という非常に厳しい環境にあります。

こうした現状を踏まえ、2007年度は、建学の精神の徹底による教育の質の向上、学生サービスの拡充、第2次改組改編への取組みを事業計画の基本方針として、教職員一体となった大学運営を行います。

★キャンパス再開発計画により完成した施設設備

【教育研究棟（27号館）】



構造階数：RC(鉄筋コンクリート)造
地上19階
延床面積：22,393 m²
設備：人文・経済・情報各学部の
教育・研究施設。教員と学生の交流
空間があります。

【共用演習棟（28号館）】



構造階数：RC(鉄筋コンクリート)造
地下1階・地上10階
延床面積：40,042 m²
設備：30万冊の図書がすぐに検索
でき、ゼミの調査・研究に有効利用
できる図書・ITセンターが完備。

【理工学部 A 棟 (29 号館)】



構造階数：RC(鉄筋コンクリート)造
地上 17 階・塔尾 1 階
延床面積：23,488 m²
設備：機械システム工学科の大型
実験室や、電気電子システ
ム工学科、物理学科の実験
室が配置されています。

【理工学部 B 棟 (30 号館)】



構造階数：RC(鉄筋コンクリート)造
地上 5 階・塔尾 1 階
延床面積：9,881 m²
設備：化学科、環境システム学科、
建築学科の実験・演習室が配
置されています。

② 明星教育の特色化に向けた目標設定と実現に向けての事業計画

1. 学生の自立性の育成

本学の特色ある教育として全学共通科目に設けている「自立と体験」の授業の質をさらに高めます。この「自立と体験」における実践を通して、体験教育の実体化をはかるとともに、学生の自立的な学習活動、学生生活の向上に寄与することをめざします。

2. 教育の質の向上

教育課程の見直し、教育方法の見直し、授業科目数の削減、再履修クラスの縮小、クラスサイズの見直しに着手します。また、全学的な Semester 制の導入についても検討します。

3. 学生による授業評価の活用

教育研究の質の維持向上のため、学生による授業評価をさらに充実します。この学生による授業評価の結果を、教育課程や教員組織編成の策定などにも繋げ、ファカルティ・ディベロップメント活動と併せて、学生の付加価値、満足度の向上に活かします。

4. 全学的なプレイスメントテストの実施

2007 年度の入学生から、全学的なプレイスメントテストを行い、学生の学力に応じた授業運営の実施に努めます。

5. 国際交流の拡大・充実

外国の大学等との学術交流を拡大・充実し、国際コミュニケーション学科の学生だけでなく、留学や海外研修に積極的に参加しやすい環境をさらに整備します。また、留学生の受入れ体制の整備にも着手します。

6. 通信教育の充実

教員養成課程を中心とした学部レベルと大学院レベルの教育体制を一層充実することをめざします。

③ 学生募集力の強化

1. 募集広報

オープンキャンパスの充実などを中心とした募集広報活動を行い、女子学生の確保に重点を置いて展開します。

2. 入試方法の改善

入試制度については、指定校推薦等の推薦入試により、一層の受験生獲得をめざします。また、A0入試を全学で実施することとし、本学にふさわしい学生確保をはかります。

3. 入学前教育の充実

推薦、A0入試で入学する学生には、以前から行っている入学前教育をさらに充実して行い、学生の学力向上に努めます。

4. 大学院留学生の拡大

大学院における外国人留学生の拡大確保を目指します。留学生確保のための課題となる宿舎の確保・奨学金等について具体的な対応策を検討します。

④ 学生・生徒支援体制の充実、サービス強化

1. 学習支援、就職支援等の充実

学習支援センターでは、さらに基礎学力講座を拡充し、学生の基礎学力の向上を積極的に支援します。特に、2007年度の入学生から実施される全学的なプレイスメントテストの結果に応じた対応についても検討を行います。

学生生活・キャリア支援センターでは、引き続きキャリア支援のプログラムを充実し、自立的に考え、行動できる学生の育成をめざします。

2. 社会人基礎力の養成講座等の充実

社会人に必要な基礎的な能力と言われている考える力、コミュニケーション力などを開発する養成講座を充実し、より多くの学生が参画できるようにします。将来的には、このような講座が単位化できる方向を検討します。

3. 奨学事業の充実

本学の40周年記念の奨学募金事業によって得られた資金による具体的な奨学事業を策定し、奨学金制度を充実します。

4. 食堂等のアメニティの充実

日野校については、キャンパス再開発により、新たに大規模な食堂を開業します。また、新図書館を中心として、各建物に確保されている学生の“落ち着ける場”について、より快適な学生生活を過ごすことができる空間として整備します。

5. ボランティアセンターの設置

学生の自立性、主体性の一層の向上および体験教育の実現の機会の場合として、ボランティアセンターを設置します。なお、このセンターはその設置の趣旨から、当面は学生、教職員のボランティア活動の一環として運営します。

6. 学友会活動の活性化

強化クラブへの支援活動を充実し、特に、運動系・音楽系クラブの強化を推進します。

⑤ 高大連携に向けた事業、施策の開発

現在具体化されていない高大連携事業について、明星高等学校との連携を手始めとして検討を進めます。

⑥ 教育・研究の特色化による競争的補助金獲得への取組み

2006年度に設置した産官学連携推進室を中心として、本学の知的財産管理の一層の強化をはかります。特に、多摩 TLO^{*}、ネットワーク多摩、多摩地域を主とする企業、経済産業省、日野・青梅・八王子市などの地方自治体との連携を深め、すでに実績のある新素材の開発、橋梁診断などの事業を継続して推進します。

併せて、科学研究費補助金、委託研究費、国および民間の各種助成金を積極的に獲得します。

^{*}Technology Licensing Organization（技術移転機関）の略で、大学から生み出された技術（特許等）を企業等に橋渡しする機関こと。

⑦ 人材の再配置等組織体制の整備

1. ファカルティ・ディベロップメント活動

今後の大学改革に不可欠なファカルティ・ディベロップメントを早急に実施し、本学の教育理念・教育目標を徹底するとともに、授業方法の改善をはかり、大学全体の意識、風土の改革を進めます。

2. 職員組織・人事制度の改編等

職員組織としては、学部事務室の新設、日野校と青梅校の事務組織を統合し、要員の見直しを行うとともに、学生支援サービスの強化とより効率的な業務の遂行に努めます。

また、2008年度の人事給与制度の改定に向けての準備を進めます。

職員研修については、若年層職員の研修を強化します。

⑧ 周年事業への取組み

開設 40 周年を迎える通信教育部の記念事業を今秋に実施します。

⑨ 将来計画への取組み

1. 第 2 次改組改編への取組み

第 2 次改組改編委員会を設け、2008 年度以降の改組改編・定員変更・新学部等の設置を検討します。

2. 大学院専攻の設置

理工学研究科に建築学専攻（仮称）、環境学専攻（仮称）の増設（2008 年度）を検討します。

2. いわき明星大学

① 基本方針

2007年度に本学は開学20周年を迎えます。この20年の間に日本の社会・経済環境は大きく変化し、本学を取り巻く経営環境は厳しさを増しています。今年度開学する薬学部は、本学が生き残るための重大な事業計画です。薬剤師養成を主目的とした6年制の新学部を開学することにより、新しい教員と目的意識の高い学生を多数受け入れ、新しい教育方式を導入します。薬学部の成功をめざし、このことを契機にして、既存の科学技術学部、人文学部も含めた本学全体を現在の社会環境に適応した大学に変えてまいります。

★ 薬学部開設に当たり完成した薬学部棟と薬用植物園、学習センター

【薬学部棟】



構造階数：RC(鉄筋コンクリート)造
地上4階、地下1階
延床面積：11,288.54㎡
設備：ラウンジ風ロビー、実習設備
(模擬薬局・模擬病室)、大講義室

【薬用植物園】



温室構造階：鉄骨造
延床面積：253.12㎡
設備：ダイヤモンドキューブ南側道路:キャンパスストリート双方からシンボルとして浮かび上がる温室、薬用植物園(露地):温室を軸に上部・下部に分かれ、四季おりおりの表情を見せる露地園場

【学習センター】



構造階数：鉄骨造
地上3階
延床面積：1,489.86㎡
設備：ホール、喫茶カウンター、スタジオ
(学習スペース)

② 明星教育の特色化に向けた目標設定と実現に向けての事業計画

「地域社会に有為な職業人の養成」に主眼を置いた教育の推進と高度専門職業人養成を行います。本学は、高度専門職業人である薬剤師ばかりでなく、臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士も含めて、職業人養成の大学として地域社会に貢献します。

③ 学生募集力の強化

大学広報の内容を、資格取得を中心に内容・体裁を一新し、充実させます。

入学者の確保としては、科学技術部の出願促進、特に茨城県の県中・県北地区を重点地域とし、進路アドバイザー2名を新設します。

④ 学生支援体制の充実、サービス強化

学習センター、教育の質の強化、キャンパス環境全般整備に取り組みます。

⑤ 高大連携に向けた事業、施策の開発

いわき市内の高大連携を実施している高等学校と連絡を密にし、高等学校の現状と大学への期待、要望などを収集できる関係を構築します。

⑥ 教育・研究の特色化による競争的補助金獲得への取組み

私立大学補助金予算額全体が縮小する中、特別補助金関係枠が増加しているため、この補助金を申請できるように教育研究事業を展開してゆきます。

⑦ 施設、設備等の整備計画

<施設>グラウンド整備・教職員駐車場拡張整備・学生第三駐車場整備拡張等

<設備>電子掲示板

⑧ 周年事業への取組み

いわき明星大学開校20周年・薬学部開設記念事業として2007年10月13日(土)に祝賀式典を開催します。記念講演会実施、20年史編纂・記念誌の作成を予定しています。

3. 明星中学高等学校

① 基本方針

2006年10月に理事会が承認した「明星中学高等学校中期改革案」に基づき財政面の健全化並びに共学体制の完成および中高一貫教育体制の整備を最重要課題としつつ、2010年度までの成果を展望した本年度の重点事業を推進します。

② 教育の特色化に向けた重点取り組み事業

- ・男女共学体制の完成に伴う生徒指導上のスキルと課題解決に努力し、そのための教員研修の強化。

- ・ 現行「選抜クラス」の成果と課題を検証した上で、RS 授業※との組み合わせにより、多様化する学力に対応できる教科教育体制の実現。
- ・ 2007 年度に実現をめざす中高一貫教育のためのカリキュラム、シラバス、自主教材の開発。

※習熟度別授業のこと。生徒一人ひとりの理解度に応じてクラスを細分化し、通常の学級人数よりも少人数できめ細かい指導を行います。理解度の高い生徒は R(Rapid)クラス、基礎重視の生徒は S(Steady)クラスに振り分けられます。

③ 生徒募集力の強化

全教職員の地区分担制による広報活動、教員や生徒の生の声や姿を通じた効果的な広報活動や情報提供に努めます。

④ 学生・生徒支援体制の充実、サービス強化

危機管理体制の確立、進路指導・生徒指導の充実、学業と課外活動のバランスの取れた学校生活の実現、低学力生徒を対象とする学習支援対策をポイントとして、取り組みます。

⑤ 地元社会・地域連携強化に向けた施策、事業

学校と PTA、同窓会が一体となった学校改革を協力・推進する体制を具体的に構築し、地域社会への貢献を通して連携を強めます。

⑥ 教育・研究の特色化による補助金獲得への取り組み

40 人学級補助、安全対策推進に各種補助金の申請を行います。

⑦ 周年募金事業への取り組み

創立 85 周年記念事業として位置づけられた講堂・体育館新築に伴う募金事業に取り組むとともに、校内環境整備に努めます。

4. 明星小学校

① 基本方針

めざす姿「正直なよい子」、「心の教育」を具現化する教育を行うことを目的に事業計画を策定しました。

② 教育の特色化に向けた重点取り組み事業

確かな学力と旺盛な集団力、思いやりの心・他人に迷惑をかけない心を身につけ、豊かな国際感覚の児童を育成するために、教師の質の向上と充実した学校生活の実現をはかります。

③ 児童募集力の強化

- ・ 授業公開・運動会・明星祭・学校説明会における教育成果の発表。
- ・ 低学年クラスにおける担任と補助教員によるきめ細かな教育指導の継続。
- ・ ホームページおよびインターネットによる広報活動の活発化。

- ・ 幼児教室・塾との連携強化。

④ 児童支援体制の充実、サービス強化

児童の安全対策として、府中警察署とのホットライン、セーフティ教室を継続し、登下校時にはキッズ・イン・フィール・GPS 機能付携帯電話を活用します。

⑤ 幼・小・中連携に向けた事業、施策の開発

- ・ 児童と明星幼稚園園児の日頃の交流、教員相互の研修会等の継続実施。
- ・ 小学校と中学校教員との交流を持ち、明星学苑一貫教育の強化。

⑥ 教育の特色化による補助金獲得への取組み

40 人学級、セーフティ教室実施等の補助金申請を行います。

⑦ 周年事業への取組み

新体育館可動式プールおよび記念講堂の中高との共用を訴求し、周年事業への理解を推進します。

小学校プール跡地は、低学年用くぬぎの時間の畑を広くして、残りを校庭用地とします。

5. 明星幼稚園

① 基本方針

「自立心のあるよい子」をめざし、ひとりびとりを大切にする保育を具現化する教育を行うことを目的に事業計画を設定しました。

② 教育の特色化に向けた重点取組み事業

親と子に愛され、親子共に成長できる幼稚園をめざし、遊びを中心とした実体験を大切にした保育を行い、職員の資質向上と地域に根ざす保育を実践します。

③ 園児募集

- ・ 未就園児対象「ひよこクラス」(年間全 10 回実施)からの入園者募集。
- ・ 園バスを導入し、より広範囲な地域からの入園者募集。
- ・ ホームページ内容を充実させ、明星保育の特色の理解促進。

④ 園児支援体制の充実、サービス強化

- ・ 園バスの導入(前項記載)による園児・保護者支援。
- ・ 現在週 1 回の給食を週 2 回にする方向で検討。

⑤ 幼・小連携に向けた事業、施策の開発

明星小学校児童とのふれあい活動、明星中学高校生による読み聞かせ、明星大学生による 3 歳児の保育補助ボランティア、明星大学人形劇団「まめ」による公演等を実施します。

⑥ 教育・研究の特色化による補助金獲得への取組み

「危機管理マニュアル」を作成し、東京都からの補助金獲得を目差します。

⑦ 施設、設備等の整備計画

より安全な園庭にするために、園庭を整備します。

⑧ 周年募金事業への取組み

- ・ 創立 85 周年記念事業募金の一環である幼稚園プール建設について説明を行い、募金についての理解を推進します。
- ・ 幼稚園創立 60 周年にあたる 2009 年度に向けて冊子作成のための取組みを行います。
- ・ 園歌を作成します。

IV 創立 85 周年記念事業計画の概要

1. 事業計画

2008 年に明星学苑は創立 85 周年を迎えますが、同年は学苑創設者である児玉九十先生の生誕 120 周年にもあたります。これまでの学苑の歩みと児玉九十先生の功績を広く内外に顕彰することを目的として、開学の地である府中に「児玉九十記念講堂（2008 年 2 月竣工予定）」を建設します。また、府中校では新校舎に続いて「新体育館（2008 年 5 月竣工予定）」を建設し、更なる教育施設の充実を図ります。これらの教育施設に合わせた緑地を再配置し、快適な学習環境の整備を推進します。

【児玉九十記念講堂完成予想図】



構造階数：RC 造屋根 S 造 地上 2 階
延床面積：2,876 m²
収容人員：1,174 名

【府中校新体育館完成予想図】



構造階数：RC 造屋根 S 造
地下 1 階・地上 3 階
延床面積：6,631 m²

2. 記念募金

① 募金の目的

児玉九十記念講堂、府中校新体育館建設等創立 85 周年記念事業に要する資金調達。

② 募金の名称

明星学苑創立 85 周年記念事業募金

③ 募金目標額

3 億円

④ 募金期間

2007 年 3 月～2009 年 12 月

⑤ 寄付者への顕彰

次の高額寄付者については、「明星学苑創立 85 周年記念事業募金者銘板」を作成し、寄付者名を刻印して「児玉九十記念講堂」内に掲示します。

- 個人で 10 万円以上の寄付者

● 法人・団体で 50 万円以上の寄付者

なお、全寄付者の芳名と寄付金額を掲載した芳名録を作成いたします。（ご希望により匿名での掲載も承ります。）

V 2007年度予算の概要

1. 予算編成方針

2007年度予算編成については、長期的な収支の均衡を図ることを財務運営の基本方針として、明星大学、いわき明星大学、明星中学高等学校、明星小学校、明星幼稚園それぞれの数値目標に見合う予算編成を行いました。

学生生徒等納付金の減少傾向に歯止めをかけ収入の安定確保に向けた取組みを強化し、経常的支出においては徹底した経費の削減と効率的な資源配分を実施することとしました。

また、明星大学日野校の理工学部棟等の新築によるキャンパス再開発、およびいわき明星大学薬学部開設に伴う校舎の新築、並びに明星高等学校等の府中キャンパスにおける講堂や体育館の改築など、施設設備面での支出増に対応していくため、中期的な財政見通しを踏まえた上で、資金の長期的な確保を図るべく財政基盤の強化に努めてまいります。

2007年度は、予算・経理システムの導入を予定しており、並行して予算制度の見直しと予算執行管理の徹底をさらに推進してまいります。

2. 予算編成の結果

① 資金収支について

資金収支予算書については、別表2のとおりです。

学生生徒等納付金収入は、前年度予算と比較して197百万円増の15,232百万円を計上しました。補助金収入は前年度予算比235百万円増の2,428百万円を計上しました。

人件費支出については、前年度予算比194百万円減の11,622百万円を計上しましたが、退職金支出を除く教職員等人件費支出については、前年度予算比469百万円の増となりました。教育研究経費支出は前年度予算比51百万円減の4,000百万円、管理経費支出は104百万円増の1,853百万円を計上しました。施設関係支出は前年度予算比21,162百万円減の2,584百万円、設備関係支出は1,987百万円減の2,019百万円を計上しました。

この結果、収入支出の合計は前年度予算比23,856百万円減の39,839百万円となり、次年度繰越支払資金は、前年度予算比1,251百万円減の15,917百万円となりました。

② 消費収支について

消費収支予算書については、別表3のとおりです。

帰属収入合計については、前年度予算と比較して300百万円増の18,769百万円を計上しましたが、これは学生生徒等納付金や補助金の増によるものです。基本金組入額合計は、3,157百万円を計上し、帰属収入合計から基本金組入額合計を差し引いた消費収入の合計は、前年予算比6,271百万円増の15,612百万円となりました。

一方、人件費、教育研究経費および管理経費等の消費支出の合計については、21,798百万円を計上し、前年予算比570百万円の増加となりました。

この結果、消費収入から消費支出を差し引いた消費収支については、6,186百万円の消費支出超過となりました。また、当年度消費収支超過額と前年度繰越消費収支超過額を合計した翌年度繰越消費収入超過額は、11,674百万円となりました。